



(公社) 日本WHO協会

×

日本国際保健医療学会学生部会

COVID-19と 医療政策

9/25
(土)
18:00~
20:30

COVID-19が流行し1年以上が経過し、ワクチンの研究・開発が進み現在多くの国でワクチン接種が行われています。しかし今もなお、世界中で猛威を振るい続け、世界情勢の不安定化や経済的ダメージを止めることができていません。

これまで我が国ではCOVID-19に対する感染拡大防止策として様々な政策が打ち出されてきました。今回はこれまでの医療政策を振り返りながら、海外の医療政策との比較を行い、今後どのようにCOVID-19と向き合うべきかを考察します。

講師紹介

坂元 晴香先生

慶応義塾大学 医療政策・管理学教室 特任助教



医師、博士（公衆衛生学）。

札幌医科大学医学部卒業後、聖路加国際病院で内科医として勤務。その後、厚生労働省国際課及び母子保健課に勤務。国連総会や、WHO（世界保健機関）総会など各種国際会議へ日本代表として参加した他、2016年にはG7伊勢志摩サミットやG7神戸保健大臣会合の会合運営にも関わる。

2014年には、世界銀行より奨学金を受けハーバード大学公衆衛生大学院に留学、公衆衛生学修士（MPH）を取得。現在は、東京大学国際保健政策学教室特任研究員、WHO西太平洋事務局コンサルタント、ゲイツ財団東京事務所コンサルタントを併任。

松山 幸弘先生

一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹



1953年2月 福岡県生まれ 68歳

1975年3月 東京大学経済学部卒業

1975年4月～1999年3月 生命保険会社にて産業調査、経営計画、年金運用等を担当。

1988年～1989年 九州大学経済学部客員助教授。

1991年 日本銀行金融研究所客員エコノミスト。

1993年～1994年 厚生省HIV疫学研究班員。

1999年4月～2005年6月 富士通総研経済研究所主席研究員。

2005年7月以降、民間医療法人専務理事、医療コンサルタント会社顧問、旭中央病院顧問、等を経て2009年4月より現職。

（専門分野）金融・財政、世界各国の社会保障制度改革、医療産業政策

スケジュール

18:00-18:10 挨拶(企画班代表、中村安秀先生)

18:10-19:00 先生お二方講演 (20分×2)

19:00-19:20 20分 質疑応答

19:20-19:35 海外の大学生による現地の生活のショートプレゼン

19:35-20:20 パネルディスカッション(講師2人+海外大生+jaih-s代表)

20:25-20:30 講評・クロージング

※時間は計150分程度を予定しています。

若干の変更の可能性があります。

お申し込みフォームはこちら！

9/23 (木) 締め切り



↓お問い合わせはこちら↓
jaih.s.16th@gmail.com